

— 歯科医療での処置について —

医療法人伊東会いとう歯科医院

伊 東 泰 蔵



■ 略歴

昭和48年 神奈川歯科大学卒業
昭和48年 鹿児島大学医学部歯科口腔外科勤務
昭和51年 神奈川歯科大学小児歯科勤務
昭和58年 歯学博士を授与
昭和59年 山田矯正歯科クリニック勤務
昭和62年 医療法人伊東会伊東歯科医院勤務

■ 現在

日本小児歯科学会認定医
日本小児口腔外科学会評議員

小児の歯科的病気の中で、う蝕、歯肉炎等の発現はまだまだ高頻度で起こっているのが実情であります。また、見逃せないのが小学低学年から高学年にいたる口の中のケガ、とくに歯の外傷に関する損傷で養護教員の先生方もよく遭遇され、苦慮された経験もあると思います。

この時期の小児の歯は萌出途上にあり、幼若で歯質は未成熟で、歯根の発育は未完成なために外傷による影響を受けやすい状態であります。

そこで、ただいま斉藤先生から現場での応急処置についてご説明がありましたので、今度は外傷後の処置と経過について、どのように治療を行って、どういう経過を見て、治癒経過をたどっていくのかを以下項目によってご説明していきたいと思います。

- (1) 前歯の正常な“歯根の発育”について
- (2) 年齢と歯根の発育状態
- (3) 歯の外傷の種類
- (4) 歯が脱落した時間と治癒経過の差
- (5) 経過観察で、どんな事が起きるのか？
- (6) 予後判定の推移
- (7) 二次的外傷の予防

以上について解説していく予定であります。